

別記様式（第2条関係）

会 議 結 果 報 告 書

令和7年5月12日

会議の名称	第1回第二次志木市将来ビジョン等策定委員会
開催日時	令和7年4月22日（火） 9時40分～11時20分
開催場所	市役所3階 庁議室
出席者職氏名	委員長：香川市長 副委員長：櫻井副市長、柚木教育長 委員：外立総合行政部長、豊島総務部長、石塚市民生活部長、 中村福祉部長、清水子ども・健康部長、滝田都市整備部長、 松井市長公室長、青木上下水道部長、今野教育政策部長、 川幡会計管理者、山崎議会事務局長、 篠崎行政委員会事務局長 （計15人）
欠席者職氏名	なし （計 0人）
説明員職氏名	政策推進課 松田課長、柴谷主査、矢野主任 ランドブレイン株式会社 菅原、稲葉、三溝 （計 6人）
議 題	1 開会 2 議題 (1) 将来ビジョンについて (2) 市民意識調査、ワークショップ、各種調査結果、志木市 将来ビジョンの総括・評価について (3) 第二次志木市将来ビジョン・将来構想（骨子）について (4) 志木市人口ビジョン（案）について (5) 今後の策定スケジュールについて 3 閉会

結 果	議題（１）～（５）について、事務局より説明し、質疑応答を行った。 指摘事項を反映し、審議会に諮る。
説明員職氏名	松井市長公室長、松田政策推進課長、柴谷政策推進課主査、矢野政策推進課主任
会議内容の記録（会議経過、結論等）	
１ 開会 ２ 議題 ・ 松田政策推進課長及び総合振興計画策定支援業務を委託しているランドブレイン株式会社菅原氏、稲葉氏、三溝氏から（１）～（５）について説明し、内容について質疑応答を行った。 （１） 将来ビジョンについて （２） 市民意識調査、ワークショップ、各種調査結果、志木市将来ビジョンの総括・評価について （３） 第二次志木市将来ビジョン・将来構想（骨子）について （４） 志木市人口ビジョン（案）について （５） 今後の策定スケジュールについて （委員） まちの将来像について審議会で検討していくとのことだが、どのように進めていくのか。 （事務局） 提示する複数の案を材料としてキーワードや考え方の要素などについて議論いただく。いただいた意見を基に事務局で改めて将来像案を作成し、再度、審議会に諮る想定である。 （委員） 今まで志木市として引き継いできた「市民参画」「市民共同」「市民力」等の要素は、市の意見として入れても良いのではないかと。審議会に問いかけるだけではなく、市としての考えを持って進めていく必要がある。 （事務局） 市としての志木市の未来への思いもあるので、議論しながら進めていきたい。 （委員）	

10年先を見据えた計画なので、案2の「いいね!」というSNSの用語を使用するのはどのようなものか。時代によって変わりゆくものなので、あまりキャッチーな言葉にこだわりすぎると10年先にも通用するのか不安がある。

(事務局)

いただいた意見を踏まえ検討したうえで審議会に提示する。

(副委員長)

市民意識調査の結果によれば定住意向は72%だが、残りの28%の市民について、どのような理由で定住意向を示していないのかの分析結果はあるか。

(事務局)

資料2-1の11ページ、問9-2で「引っ越したい」と答えた人に理由を伺っている。地域性もあるが、「交通の便が良くない」や「災害の危険性が高い」という意見が多い。その他の意見では「職場の近くに住みたいから」、「東京都の子育て支援の方が良いから」というものもあった。

「住み続けたい理由」「住み続けたくない理由」とともに交通に関することが多く挙げられており、地域差がかなりあると考えている。

(副委員長)

まちづくりのコンセプトにある「市民力が躍動する」について、「市民」が躍動するのではなく、「市民力」が躍動するという表現は意図的か。また、施策体系の「2. 未来を支える次世代を育む」において、「学校教育」の分野は幅広く大きい「子ども・若者の健全育成」とはカテゴリーを分けて単独とした方が良いのではないか。

(事務局)

志木市内では「市民力」が「市民が持つ力」という固有名詞として定着が進んでいると考えこの表現としたが、より分かりやすくするために鍵括弧を加え固有名詞を強調する表現に変更する。

また、「学校教育」で1つの項目と変更する。

(副委員長)

将来ビジョンとは、この先10年で志木市の人口、社会、経済等あらゆるものがこうなっていくであろう、その中で志木市はどのように施策を展開していく、このようにしていく必要があるということを掲げる計画であると思う。10年先をどのように見ているか。

(事務局)

人口については、2060年までを計画期間とする「人口ビジョン」において、国が推計する人口を基に目標人口を設定し、達成するための施策の方向性を示している。人口を伸ばしていくためには、まず出生率を上げていかななくてはならな

い。そして、転入を増やし、転出を減らすことが必要である。そのための取組として子育ての施策、まちの魅力向上、安全安心なまちづくりをしっかりと推し進める必要がある。

経済等について市独自で将来展望を予測することは難しい。人口についても、国立社会保障・人口問題研究所が公表している2050年までの将来人口を活用し、ベースとしたうえで目標推計などを算出しているものである。

(委員長)

人口減少は大きな課題だが、出生数が簡単に多くなるということはない。志木市は現状、人口を維持できているが、さらに10年先を見据えたときには民生委員や町内会の活動存続は危ぶまれる。どのようにこの難所に対応していくかの具体性と実現性が必要である。また、企業の成長をどのようにして作っていくかも重要である。いかに成長戦略を練っていくか、人の力をどのようにしてつけていくか。これらの危機感を共有しながら、20年、30年先も見据えた力強い土台をつくる計画としたい。

(事務局)

将来ビジョン・将来構想は10年間の大枠の方向性を示す計画であり、その方向性に沿って実現計画という5年間の計画の中で具体的な施策を組み立てていく構成となっている。詳細な課題、それに対する対応施策は今後の策定委員会でご確認いただく実現計画において示していく予定である。

(委員長)

将来ビジョンの冒頭に現状把握は記載するのか。目指すべき明るい未来に向けた夢や希望も大事だが、今抱えている危機感についてもしっかりと書かないといけない。

(事務局)

各分野における国の動向や志木市の概況などを記載予定である。

(副委員長)

将来像に「結婚、妊娠、出産の希望をかなえる」とあるが、色んな価値観がある中でこれらを希望しない人もいるだろうと考える。人口減少を前提に考えても良いのではないか。人口減少を悪いこととは考えず、今住んでいる人が幸せに楽しく暮らせることを考えた方が良いという考えもある。

(委員)

子どもを産むことや結婚観について、行政が言及して良いのか、もう一度検討した方が良いのではないか。

(事務局)

地方創生のコンセプトは国の総合戦略を勘案するものとなっている。また、「希

望をかなえる」として「希望する人は子どもを産んで育てることができるように」という考えである。

(委員)

幹事会で出された意見を踏まえ修正された箇所はどこか。

(事務局)

幹事会ではいくつか意見が出た。施策体系の「子ども・子育て支援」について、当初は「子育て家庭支援」としていたが、「こどもまんなか社会」等の考えのもと、子ども自身を中心へ据えた施策が重要であるという意見をいただき変更したものである。

また、この後に説明する人口推計について、合計特殊出生率の目標を県の目標に合わせて1.78としていたが、市の実績に基づいた指標設定が良いのではないかという意見により、志木市の近年の最大値である1.54として修正している。

(委員)

意識調査の結果は公開されるのか。

(事務局)

資料として本計画への添付を予定するほか市ホームページにて公開する。

(委員)

意識調査の回答数はサンプル数として十分なのか。

(事務局)

信頼度95%に収まる程度の有効回答数が得られている。

(委員長)

コンサルタントの立場として、志木市の良いところ、悪いところをどのように感じているか。

(事務局)

地域差はあるが、都心からの鉄道やバスの利便性が高い。交通が不便だと感じている人でも自然環境が良いと評価するなど、コンパクトな市域の中にさまざまな意見が凝縮されていると感じる。ワークショップでも多種多様な意見をいただいた。また、積極的な方が多くいる印象を持った。審議会委員の半数に一般公募の市民が入っている審議会は珍しく、意見も活発に出されている。市民力を掲げてきた市だということを実感している。

(副委員長)

新規採用職員の面接で、志木市の魅力について問うと「交通の便が良い」「東京に近い」「川があって良い」などの回答が多い。しかし、それらは我々の成果ではなく、既に与えられたものなので、それを評価されると何となく寂しい。与えら

れているものを評価されてもつまらない。何年も志木市はこういうことに取り組んできて素晴らしい、だから応募したと言われると嬉しい。

(委員)

「社会の多様性」というワードをよく耳にしており、ワークショップでも「多様な人が集える」と書いてある。「多様性」という言葉を使った際にどのような施策があるのか。

(事務局)

具体的には、生活困窮の方も高齢者の方もそうでない方も含め、共生社会を推進するということが挙げられる。施策の柱でいうと「1. だれもが健康で暮らせる共生社会をつくる」で言及している。LGBTQや男女共同参画のような人権に関する「多様性」については、現行計画と同様に「持続可能で成長するまちをつくる」に位置付ける予定である

(委員)

合計特殊出生率について、県が試算している、「夫婦の予定子ども数」や「希望出生率」等の本人の希望で出している数値と、実際の合計特殊出生率を並べて扱うことは問題ないのか。

(事務局)

合計特殊出生率は1人の女性が生涯に産む子どもの数、希望出生率は夫婦が予定している子どもの数と独身者が希望する子どもの数から計算されており、出産や子育ての希望をすべてかなえていくという条件を加えると、合計特殊出生率と希望出生率とは同じ考え方に基づいている。

(委員長)

合計特殊出生率に目を奪われ過ぎてしまうと、人口を伸ばすという施策と噛み合わなくなってくるのではないかと感じる。合計特殊出生率よりも転入転出の方に重きを置いた方が良いのではないか。志木市は交通の便が良く、川もあり良い場所である。

(事務局)

そのような考え方もあるが、出生数が上がらずに転入ばかりが増える自治体はブラックホール自治体と呼ばれることもあり、転入者を増やすということは当然のことながら、出生数を上げていく、子どもの数を増やしていくことについては、議論する必要がある。

(委員)

志木市の出生数は700人に届いていないのか。

(事務局)

およそ５００人である。合計特殊出生率は低いが、１０００人当たりの出生率は県内でも高い。

(委員長)

国の推計値を下回る目標の設定は難しいと考えているが、合計特殊出生率の上昇ではなく、転入の促進に重きを置いて人口増加を目指すことも考えられるのではないか。

(事務局)

現案では国の人口推計に対して合計特殊出生率と転入数を増やすことで人口増を目指しているが、転入の促進に重きを置いて目標を据える方法も考えられる。合計特殊出生率の上昇より転入促進に重きを置く方法を検討する。

(副委員長)

３５年後の目標人口が一の位まで記載されているが、視覚的な分かりやすさも重要である。端数を丸めるのはどうか。

(事務局)

修正する。

３ 閉会

備考 会議内容の記録には、発言者の立場を明記するとともに、発言の趣旨が容易に理解できるよう簡潔明瞭に記載すること。